

日本における監獄建築の空間分析 —完成写真集を分析対象として— Spatial Analysis of Prison Architecture in Japan Using the Completed Photo Book

○北村円香¹, 山中新太郎²

*Madoka Kitamura¹, Shintaro Yamanaka²

Prisons have changed since ancient times to the present day. Prisons in the past focused on the management of inmates, but now aim to rehabilitate and reintegrate them into society. However, there are many points that should be imitated in the management method of the era when the aim was to thoroughly manage the inmates. The purpose of this study is to clarify the quality of inmates' living spaces in prisons.

1. はじめに

1-1. 研究の背景と目的

古来より今日に至るまで刑務所の在り方は変化し続けてきた。昔の監獄は被収容者の自由を剥奪し、徹底的に管理することに重きを置いていたが、昭和8年に行刑累進処遇令が制定されて以来、被収容者の更生・社会復帰という目標が明らかになった。現代の刑務所の目指すべき在り方は被収容者の徹底的な管理ではないが、監獄建築の管理機能には優れた点が数多く存在する。刑務所は我が国の治安維持のために必要不可欠である施設である。一方で、セキュリティの維持等の理由により社会から隔離されてきた刑務所の意義について理解する人は少ない。時代に合ったより機能的で近代的な施設設計のために、いわゆる NIMBY(Not In My BackYard)の施設である刑務所について理解を深める必要がある。

本研究では、監獄建築の仕様における現代への転用可能性を明らかにすること、また、価値ある刑務所計画の歴史を理解するために、あまり明らかにされていない監獄建築の当時の施設内部空間の実態を明らかにすることを目的とする。

1-2. 研究の位置付け

監獄建築の配置・空間特性に関する研究として、山井ら^[1]は監獄を属性と区域で分類し、配置計画や空間比率等について分析している。また、Table 1, Figure 1より、その他の研究についても配置計画等に関する研究は見られるが、内部空間見て視覚的に分析したものはあまり見られない。そのため本研究では監獄建築の内部空間の写真を視覚的に評価し分析することで、当時の計画の実態を考察する。

Table 1. 既往研究タイトル
;日本建築学会 HP^[2]に掲載されているものを抜粋

研究タイトル	執筆者
1 旧多摩監獄の建物について (その1, その2, その3)	藤田秀夫, 岩崎和男, 渡辺実, 宇井聖
2 開成後の監獄監獄—明治13年—	遠藤朝久
3 明治初期司法施設形成における海外視察の影響について—取組の経緯と法政に關する考察—	細野幹司
4 水戸監獄—監獄城 (後刑場) について	坂口重典
5 明治初期—山下晋太郎—近代化建築の建築—	松澤忠典
6 各人権本監獄の建築に関する研究 (1) (2)	伊藤重典, 末廣武志, 豊田史史
7 近代日本における監獄建築の配置計画に関する研究—札幌監獄の配置計画との相性を論じて—	山井新太郎, 山中新太郎, 富田正守
8 近代日本における監獄建築の配置・空間特性に関する研究	山井新太郎, 山中新太郎, 田中達也, 杉山敬明
9 『コンドルが飛ぶ』 ARCHITECT'S NOTES ON THE GREAT EARTHQUAKE OF OCTOBER, 1891. において報告した岐阜監獄署について—コンドルによる震害地調査の研究 (3) (4)	平山昇男
10 昭和初期の刑務所庁舎に示された行刑建築の新しいあり方	原野沙由美, 山崎龍介
11 戦前の司法官署建築による行刑建築の設計体制	原野沙由美, 山崎龍介
12 学務的刑務所からみた旧奈良少年刑務所における建築の価値に関する研究—ヒアリング調査による旧奈良少年刑務所の分析 (その1, その2)	原島, 久保田聖典, 山崎龍介, 神谷紀隆子
13 奈良監獄本館の煉瓦造建築の建設プロセス	三野美穂子, 山崎龍介, 原野沙由美

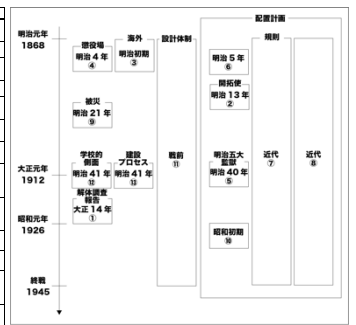


Figure 1. 既往研究関連図

1-3. 研究対象と方法

本研究では矯正図書館に所蔵されている完成写真集に掲載されている内部空間の写真を対象に分析する。対象となる7施設はTable 2に示す。完成写真集に内部空間の写真が掲載されていないもの、複写ができなかったものに関しては対象外とする。また、対象となっている施設においても画質等の関係で評価・分析の困難な写真は対象外とする。

Table 2. 研究対象施設一覧

竣工	写真集タイトル	施設名
1868	松山刑務所建築記念写真帖	松山刑務所
1870	静岡刑務所移転20周年 記念写真集	静岡刑務所
1912	網走監獄復旧工事落成記念写真帖	網走監獄
1912	建築記念写真帖	甲府監獄
1915	安濃津監獄記念写真帖	安濃津監獄
1915	記念写真帖	豊多摩監獄
1921	熊本監獄記念写真帖	熊本監獄
1923	復興記念 小田原少年刑務所	小田原少年刑務所
1925	岐阜刑務所建築記念写真帖	岐阜刑務所
1928	建築記念写真帖	大阪刑務所
1929	小菅刑務所落成記念写真帖	小菅刑務所
1929	建築落成記念写真帖	宇都宮刑務所
1935	府中刑務所落成記念写真帖	府中刑務所
1976	宮崎刑務所建築記念写真帖	宮崎刑務所

1 : 日大理工・院 (前)・建築 2 : 日大理工・教員・建築

2. 分析方法概要

2-1. 内部空間写真の評価

監獄の内部空間の写真について、その内装仕上げや開口部の位置等を評価し、分析する。その際に、高等建築学第19巻、刑務所^[3]に掲載されている規範的刑務所における各室室内仕上概要表 (Table 2) と所用各室面積・室内仕上概要等表 (Table 3) を比較材料として使用する。尚、以下ではこの表の室内仕上種別番号をランク、規範刑務所と各刑務所の同室におけるランクの差をランク差と呼ぶこととする。

Table 3.各室室内仕上概要表 ; [3]を元に作成

室内仕上種別番号	床	壁			天井	塗装
		巾木	壁	上棚		
A	絨毯	木製	木製	漆喰	木製	木製
B	リノリウム	杉	杉	漆喰	木製	木製
C	リノリウム	杉	モルタル上ペイント	漆喰	モルタル上ペイント	同上
D	モルタル 又は人造石 壁紙	人造石壁出	モルタル上ペイント	漆喰	モルタル上ペイント	同上
E	モルタル	モルタル	Eはモルタル上ペイント	漆喰	モルタル	同上
F	タイル	タイル	漆喰	モルタル上ペイント 又は漆喰	モルタル	同上
G	モルタル	人造石壁出	漆喰	モルタル	同上	
H	木製ブロック 又は板張	杉	漆喰	モルタル上ペイント 又は漆喰	同上	
I	木製ブロック 又は板張	杉	モルタル上ペイント	漆喰	モルタル上ペイント	同上
J	畳敷	漆喰	モルタル上ペイント	同上		
K	アスファルト モルタル	アスファルト モルタル	モルタル	同上	木製板張 ペイント	

Table 4.居居室における所用各室面積・室内仕上概要等表 ; [3]を元に作成

室名	床面積 (㎡)	室内仕上種別番号	備考
経理独居房	6.6㎡ ×170室	I	
夜間独居房	5.5 ×400室	I	
雑居房	3.3 ×300人	I	3.3㎡は雑居1人当り床面積であって、3.3㎡に床を収める意味ではない。
考査房 (独居)	6.6 ×60室	I	
考査房 (雑居)	3.3 ×20人	I	
優良房	8.0 ×20室	C又はJ	
観音房	7.0 ×5室	特殊	観音房は事務所に近くを造るとする
経理独居房 浴室	8.0 ×5室	F	

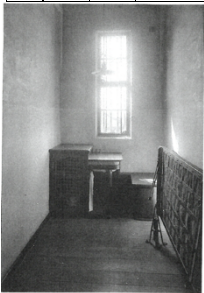


Figure 2.小菅刑務所独居房^[4]

Figure 3.小菅刑務所雑居房内部^[4]

2-2. 時代背景との照合

2-1で行った評価をもとにそれぞれの監獄の年代ごとの変遷や傾向を分析する。また、その分析結果における規則の変化や出来事等の時代背景との紐付けを行う。

3. 分析結果

3-1. 写真分析

Table 5は小菅刑務所の雑居房の写真 (Figure 3) を分析したものである。Table 4より、規範刑務所における雑居房の室内仕上げランクはIである^[13]。以下のようにして写真の特徴を読み取った結果、壁が全面漆喰であることからこの室は規範刑務所の同室と比べて1ランク高いHであると考えられる。

Table 5.小菅刑務所雑居房(Figure 3)の写真分析

室名	特徴	ランク	ランク差
雑居房	<ul style="list-style-type: none"> 床は木製ブロック、壁は漆喰で仕上げられている。 開口部は大きな縦長の窓が3箇所あり、開口面積が大きいため、室内は自然光で明るくなっている。 左奥にドアが2箇所あるため、壁で遮られた所に便所等があると予想される。 家具は机とベッドがあり、大部分の床が埋まっている。 規範刑務所における内装仕上げと比較すると、壁が途中で切り替わらず全て漆喰であることから、規範刑務所より1ランク高いHであると考えられる。 	H	1

3-2. 傾向分析

傾向分析の例として、雑居房を取り上げる。Figure 4はそれぞれの監獄の雑居房における写真分析の結果を示した図である。横軸に施設が竣工した年代、縦軸に規範刑務所と各刑務所の同室におけるランク差を取り、その相関関係を示している。

この図を見ると、雑居房の内装仕上げについて、過半数の施設は規範刑務所と同等であり、規範刑務所を下回る施設は存在しないことが読み取れる。一方で、1912年-1915年と1929年-1935年の期間においては規範刑務所とのランク差が+1である。

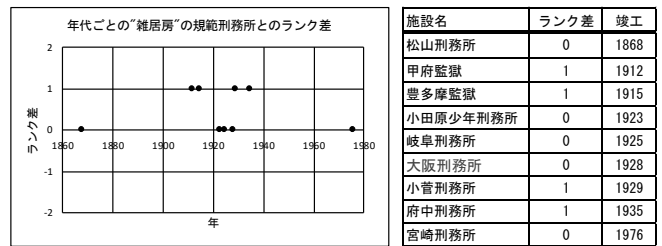


Figure 4.雑居房における規範刑務所とのランク差^{[4] [5] [6] [7] [8] [9] [10] [11] [12] [13]}

4. 今後の展望

今回行った分析を Table 2 で示した全対象監獄に対して行う。同じ種類の室でも寝具が布団である施設やベッドである施設があるなど、内装仕上げ以外の特徴があることも予想される。また、並行してその年代ごとの変遷や特徴に対する根拠を探り、規則や出来事などの時代背景との紐付けを行なっていく。矯正図書館に所蔵される手に入りうる全ての完成写真集に対してこれらの分析を行うことで、監獄建築の内部空間における当時の施設内部空間の実態と内部空間の変化の軌跡を明らかにしたい。

謝辞

本研究の遂行にあたり、多数の資料をご提供いただき、多大なご助言を賜りました法務省 山井翔太氏に深謝いたします。

参考文献・注釈

- [1] 山井翔太, 山中新太郎, 田中達也, 杉山敬明: 「近代日本における監獄建築の配置・空間特性に関する研究」, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 2015, p187-188, 2015年
- [2] 日本建築学会 HP: 「論文検索」, 2022年9月1日閲覧 <https://www.aij.or.jp/paper/search.html>
- [3] 張管雄, 遠藤金之助, 藤田金一郎: 「高等建築学第19巻」, 建築計画7, 第43篇, 刑務所, p21-p29, 常磐書房, 昭和8年
- [4] 「小菅刑務所図集」, 小菅刑務所, 昭和4年
- [5] 「松山刑務所建築記念写真帖」, 松山刑務所, 大正14年
- [6] 「建築記念写真帖」, 甲府監獄文武同志会, 明治45年
- [7] 「記念写真帖」, 豊多摩監獄, 大正4年
- [8] 「復興記念 小田原少年刑務所」, 小田原少年刑務所, 不明
- [9] 「岐阜刑務所建築記念写真帖」, 岐阜刑務所, 昭和6年
- [10] 「建築記念写真帖」, 大阪刑務所, 昭和3年
- [11] 「府中刑務所落成記念写真帖」, 府中刑務所, 昭和10年
- [12] 「宮崎刑務所建築記念写真帖」, 宮崎刑務所, 不明
- [13] 室内仕上げのランクIとHは、写真から壁が見切りによって上下で区切られている場合や、壁の色が上下で明らかに変わっている場合をIとし、壁一面が同一色で全て同じ仕上げに見える場合をHとしている。